



コロナ禍で中止・延期となっていたスタディツアーが復活してきています。夏以降、小学校教員の教材研究や退職教員の生涯学習、大学のゼミ合宿、平和活動のセミナーツアー、中学・高校の平和学習など、様々な団体が各地から訪れました。200人や300人規模の学生団体も来るようになり、新しいガイドメンバーが活躍はじめています。

私たちは有形無形の文化遺産を“屋根のない博物館”と捉え、市民が学芸員となって研究・展示・保全などのエコミュージアム活動を進めています。「館山まると博物館」では、戦争遺跡の平和学習ばかりでなく、移民や遭難救助など善隣友好を育んだ国際理解教育、貝磨き体験などの環境学習、海岸段丘や断層などの地質学、地震・災害の復興救済など、多面的な“平和の文化”を学ぶことができます。公式サイト「スタディツアーガイド」から、赤字の参考資料をご覧ください。 ▲QR



ガイドスタッフの打合せ



赤山地下壕内の発電室



特攻艇「震洋」基地跡



ハンゲル「四面石塔」



「憶従軍慰安婦」碑



座学「館山まると博物館」



紙芝居「南総里見八犬伝」



貝磨きアクセサリ作り



掩体壕を見学する生徒ら＝館山

本来は1年生時の昨年6月に計画されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2度延期。まん延防止等重点措置の解除を受けて実現した。生徒らは、事前に映像で安房地域の戦争遺跡などについて学んだ上で、5月17、18日の2日間の日程で来訪。初日は、同フォーラム共同代表の池田恵美子さんの平和講話に

見学した。房文化遺産フォーラムの講話を聞き、赤山地下壕(ごう)跡などを

館山で平和学習

横浜の中学校 2年生 214人 講話や赤山地下壕跡見学

横浜市の荏田南中学 館山市に平和学習のため、校2年生214人が、め来訪。NPO法人安

房日新聞 2022.6.10付



毎月第1日曜午前は赤山ガイドサービス

耳を傾け、2日目は同にも体験させたいとフォーラムスタッフの思ってから6年目だよガイドで赤山地下壕うやく実現した。生徒跡、掩体壕(えんたい)たいちも平和への理解を(ごう)を見学し、平和深め、良い機会になった」と話している。同校学年主任の山口大輔教諭は「2016生200人も訪れるこ年に社会科学員研修でとなつているとい来訪し、ぜひ生徒たちう。

Report 旧安房南高校木造校舎の

10/29・30(土日) 見学会、4年ぶり開催

白鳥が羽を広げたようなシンメトリーの美しい木造校舎は、1930 年建立の千葉県指定有形文化財。県教委の委託を NPO が受け、安房高等女学校木造校舎を愛する会の協力で4年ぶりに開催。感染対策のため日時指定の予約制。2日間にわたり 520 名の来場者を迎えました。安房の美術教育に貢献した芸術家の作品展や、教材展示、ロケで撮影された映画紹介などを楽しんでいただきました。



Report 市民協働のウガンダ支援交流と 友情の絆28年のあゆみ展

8月にとみうら枇杷倶楽部ギャラリーで開催された第18回安房・平和のための美術展では、平和活動団体へのチャリティ企画であり、ウガンダ支援交流へ5万円の協賛寄付をいただきました。

10月のウガンダコーヒー月間では、協賛26店舗と1団体が参画し、流通量●kgで支援金●となりました。ご賛同くださった皆様、ありがとうございます。なお、数店およびオンラインショップでは通年の販売を取り扱っていますのでご利用ください。

また、平和美術展および10月の南総文化ホールギャラリーにて、「ウガンダ支援交流28年のあゆみ」展を開催しました。1994年から安房南高校に始まり、統廃合を経て安房高校 JRC 部、安房西高校 JRC 部へとバトンが引き継がれ、2000年にはウガンダに“安房南”と命名された洋裁学校が開かれています。この間の各校が文化祭で紹介した展示資料や現地の写真などを紹介しました。



第28回平和のための戦争展

11/11(金)～13(日) 入場無料
船橋市民ギャラリー(船橋スクエアビル 3F)

NPO 安房文化遺産フォーラムからパネル出展
高校生と市民協働のウガンダ支援交流 28 年

Report 第28回安房地域母親大会

～前川喜平氏の教育講演 10/10(祝)

当 NPO が実行委員会の構成団体として開催している安房地域母親大会では、【教育の今、子どもの未来を考えよう！】をテーマに、元文部科学事務次官で現代教育行政研究会代表の前川喜平さんを招き、230 名が聴講しました。

教育基本法改正に関する問題点をはじめ道徳教科書問題や歴史認識問題、旧統一教会に関わる諸問題などを分かりやすく解説していただきました。さらに今回浮き彫りになった宗教二世については、子どもたちの学習権をどう保障するかという課題が明らかになってきたと述べました。収入が献金に回されて教育虐待が起きがちな家庭では、子どもたちへの支援金が奪われないように、文部科学省は全ての子どもに行き渡るような普遍主義的な支援制度が必要だと指摘されました。



第二部では、千葉大学教育学部附属小学校の中谷佳子教諭から、コロナ禍におけるオンライン教育の苦労と実践について報告いただいた後、トークセッションでは会場からの質疑を受けてお二人から発言していただきました。

◀ YouTube 動画

⇒ 資料をご希望の方は、NPO 事務局までお問合せください。

